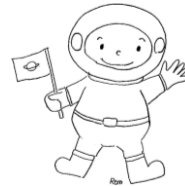




エコ・ちがさき



楽しみを見つけませんか！
お仲間と、一緒に…

2月11日に茅ヶ崎ゆかりの人物館がプレオープンしました。開高健記念館の隣の高台に位置し、海風を身近に感じる自然に溶け込んだとても素敵な館です。

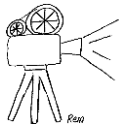
この施設は展示館と多目的館の2つの館から成ります。いずれも木の香りが快い心温まる空間。まさに訪れる方々に茅ヶ崎を愛し知ってもらいたい場所の誕生です。



今回の案内をしてくれた
文化生涯学習課の鈴木さん

古民家風の展示館

古民家の良さをいかした展示室では、プレオープン中は市民栄誉賞受賞者を紹介する企画展が開催されています。読みやすいパネルと実物展示でゆかりの方々を紹介。「わー！本物のユニフォームだ」「へえー宇宙服ってこんなに大きいのね」と見て楽しい・知って学べる形になっています。汗と努力の足跡を感じ、子供から大人まで楽しめる事間違いなし。プレオープン後も様々な茅ヶ崎にゆかりのある人々や作品が常設展示されていきます。



アイデアあふれる多目的館

企画展を初め講演会、映画上映会、ミニコンサート、子供達の展示会など何にでも使える可能性がいっぱい。市民の輪を広げながらみんなに愛される館として育っていきます。



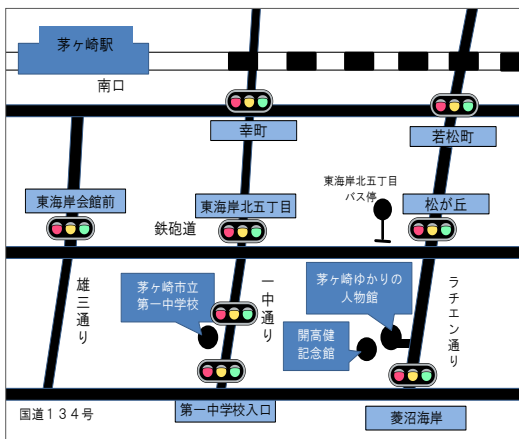
潮風感じるウッドデッキ



気持ちのいい風や光を浴びて緑の中で一休み。もちろん屋外のイベント会場にもなりますが、お茶を飲んだりおしゃべりをしたり、自由にくつろげる居心地のいい所です。

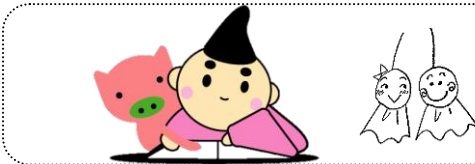
お散歩がてら寄ってみよう！

茅ヶ崎にゆかりのある方々の生き方や考え方に触れ、パワーや元気がもらえました。人物館を通じて人がどんどんつながりまちが楽しくなっていく。そんな魅力ある場所になりそうです。



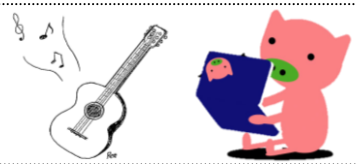
オープニング記念イベントでは「夏みかん」を植樹しました

開館日：毎週金・土・日曜日の3日間と祝日
開館時間：4月～10月は10時～18時
(入館は17時30分まで)
11月～3月は10時～17時
(入館は16時30分まで)
住所：茅ヶ崎市東海岸南6-6-64
お問合せ：茅ヶ崎ゆかりの人物館
0467-81-5015



まなびの市民講師紹介

- P2. 折り紙「尾坂郭子さん」
- P3. 詩吟「藤間豊さん」



あなたの学びのお手伝い

尾坂郭子さんにお話を伺いました。

「折り紙は日本文化のルーツ」 ～子どもからお年寄まで～

もともとは詩が好きなんですとおっしゃる尾坂さんは穏やかで聡明な方という第一印象でした。2007年に折り紙講師認定の資格を取得。2009年9月30日に折り紙絵本技能士認定。そして20年ぐらい前に中学校で地域交流会に参加し、折り紙の楽しさを共に味わいました。地域ふれあい講座は、現在北陽中学校と松林中学校で行っています。

また農協3階で65才以上の茅ヶ崎おりがみ教室では季節感のあるものを作ります。福祉関係では歌に合う作品などを作っています。例えばもみじの歌に合わせてもみじを。またカレンダーや広告の紙を利用したり、多種多様な作品を作る楽しみもあります。毎月第二火曜日は鶴嶺公民館で子どもとお年寄りの交流のおりがみ講座を行なっています。子どもから教えられることがあって楽しいですよ、とおっしゃっていました。

折り紙を始めたきっかけ

きっかけの一つは分離した今宿小学校の図書館勤務でした。読みきかせ、図書選びなどを中心に休み時間や掃除の時間などに子どもたちとの絆が生まれました。

古典折り紙は一枚の紙を折りあげていく過程で船、風車、奴さんなど変化する様子に眼を輝かせていた子どもたちを思いおこしています。あの頃は今のようにテレビっ子とはいえゲームなどない時でしたから外で思いっきり遊ぶ楽しさを味わっていた時代でした。

やってよかった折り紙教室

皆で遊べる折り紙は熱中できる遊びの一つです。男の子、女の子、1年生から6年生までが平等に教え合える。つまり一つになれるのです。

今はいろいろな人々とボランティア活動をしていますが、殆ど折り紙です。皆がとても楽しそうで童心に帰れる至福の時なんですよ。

折り紙教室の思い出

年中計画は行事（民俗）を中心に作品を作りあげながら、子ども時代、子育て時代、そして現代とそれぞれの思い出を語りながら手元がおろそかになるくらい話はずみです。思い出に年の差はありません。

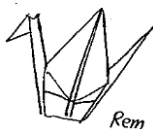
折り紙をやってよかったと思うひとときをそのつど味わっています。

そして楽しみに来て下さる仲間の背を見送りながら頑張らなくてはと思っています。

牛乳パックを利用して素敵な箱も作ります

尾坂郭子さんのご連絡先

住所：茅ヶ崎市浜之郷486
電話：0467-83-2610



「まなびの市民講師」の横顔



藤間 豊さんにお話を伺いました。



姿勢は正しく、声は凛として心に響きました。



まなびの市民講師の藤間豊さんは詩吟を教えてくださいます。早春の暖かな或る日の午後、青少年会館のホールでお話を伺いました。

柔らかな語り口でとつとつと思いを語る藤間豊さん、詩吟を始められたのは2000年とのこと。

1998年に退職後、その後の生き方を探している中で以前から興味があった詩吟に出会い、始められたそうです。

「詩吟はお腹から声を出しますから健康にいいですよ」

「詩吟をおやりになっている方々の高齢化が進んでいるんです。この伝統文化を絶やさないために若い人たちに詩吟を広めたいんです」

日本詩吟学院神奈川吟和会藤沢支部の常任理事を務めておられる藤間豊さん、決して派手な話し方ではありませんが、並々ならぬ決意が心に響いてきました。

「発表の場があれば自ずと自己研鑽に励みます。詩吟を発表する場を設けたいですね。詩吟は口伝で指導します。ほめながら指導するように心がけています」

お話の合間に、藤間さんは「八聖殿を仰ぐ」という七言絶句の漢詩と源実朝の和歌「箱根路をわが越えくれば伊豆の海や沖の小島に波の寄る見ゆ」を吟じてくださいました。すくっと立ち上がった姿勢は正しく、お声は凛として、取材場所を青少年会館のホールにしてよかったと思わせるほど拝聴する人の心を揺さぶりました。藤間さんは腹式呼吸で声を出して吟じる様子を実際に見せてくださったのです。

「1時間半ほど指導するんですが、お腹から声を出しますから受講生の皆さんは汗がにじんでくる位に疲れると思います。詩吟は生涯学習に適していますよ」



更に藤間さんは漢詩「八聖殿を仰ぐ」を使って素読する指導場面を示してくださいました。漢詩の横には声の抑揚や伸ばし方が記号で書かれていました。詩吟は教本を見ながら先生の吟じ方になぞらえて学びます。回を重ねるうちに少しずつ吟じられるようになっていくそうです。市民の皆さんも伝統も格式もある詩吟を学ばれてはいかがでしょうか。詩吟を学びたい方は下記にお問い合わせください。

収 宇 億 仰
蔵 宙 兆 之
神 無 千 八
鏡 窮 秋 聖
皎 一 慕 愈
明 眞 偉 高
中 理 風 崇

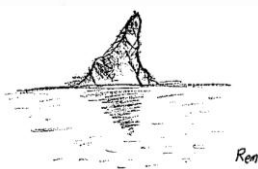
収蔵す神鏡皎明中。
宇宙無窮の一眞理。
億兆千秋偉風を慕う。

これを仰げば八聖愈高崇。

2 八聖殿を仰ぐ

これを仰げば八聖愈高崇

収蔵す神鏡皎明の中

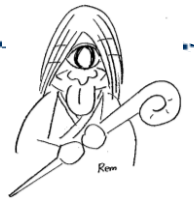


藤間豊さんのご連絡先

電話：0467-82-1748
FAX：0467-89-3786
メール：emhouse@coda.ocn.ne.jp



私の第一歩



『民話にふれて』

茅ヶ崎民話の会

大谷千代子さん

声出しが必要と思い入会しました。台詞の中の言葉に、その時代を感じ、遙か昔の風景が蘇り、ほっこりしますが、さて読み方となると、アクセント、間の取り方、声の強弱と難しいものだな～と感じました。それだけに先輩方の声出しに聞き入り、作中の人物になりきって変身し、民話の世界に浸ります。練習はつかの間、タイムスリップし、自分の心に潤いを与えてくれ、活力となっています。

又、茅ヶ崎にこんな沢山の民話があるという事に驚きであり、その一つ、一つを訪ね歩く事がこれからの楽しみです。



ご連絡先：0467-83-2056

(代表 宮治智恵子)

会員数：13人

会費：年2,000円

日時：毎月第3土曜日午後2時から上演、民話練習は月2回以上

場所：図書館第一会議室、いこりあ他

近ごろ思うこと

まなびの市民講師 矢嶋望さん

まなびの市民講師に登録して早6～7年になります。当初は私の専門である建築学を講座にしていました。その後「写経」の講座を図書館などで開きました。最近ではフォークソングを歌う講座を始めました。現在、毎月1回次の3つのサークルを続けています。

① 柳島写経会 (勤労市民会館)

② フォークを唄おう (青少年会館)

③ 建築デザインクラブ (勤労市民会館)

興味のある方は下記にご連絡下さい。090-9233-0273 矢嶋望
今後もローカルファーストの少しでもお役に立てればと思っています。



街角

「もっと本を読みましょう」



若者の活字離れが最近になって更に顕著になってきました。NHKテレビでも約4割の大学生が本を読まなくなったと報じていました。最近の大学生は、論文やレポートを書く場合、パソコンでインターネットを開き、課題に関する文献を検索して切り貼りして仕上げるそうです。これでは借り物の論文やレポートに過ぎず、課題についての自分自身の考えを明らかにすることはできません。インターネットを利用することを否定はしませんが、「学ぶ」という行為は薄っぺらで安直なものではありません。面倒でも図書館や書店で課題に関する文献や資料を探し、それらをじっくり読んで考察してこそ本物の論文やレポートになります。時間と労力、多少のお金を使って本物の学問の仕方を若者には体得してほしいですね。もっと本を読みましょ

4・7



編集後記

さわやかな季節になりました。まなびの市民講師の紹介を続けてますが取材するたびに心が豊かになる。施設を見学したり、自分も学べるのが楽しいです。

編集に興味のある皆さまも一緒に活動しませんか。お待ちしております。



m.t

ひととき

短歌 (伊藤要次選)

青春の淡き片恋胸に秘め五十年後の君と再会

根津 玲子

毎日を無事にと願うシニア達転倒予防体操に励む

双葉



俳句 (清水吞舟選)

庭先に沸き立つ笑ひ春近し

加藤 寛明

黒土に緑一点春近し

鈴木登志子

明けやらぬバス停の列息白し

伊藤 徳治

*未発表の短歌・俳句作品を募集しています。下記宛先へ6月1日(月)までにご連絡ください。

*次号(第70号)の発行予定は、平成27年8月1日です。



いつでも どこでも だれでも なにからでも

発行・編集 エコー・ちがさき編集委員会

〒253-8686 茅ヶ崎市茅ヶ崎一丁目1番1号 茅ヶ崎市文化生涯学習部文化生涯学習課

TEL0467-82-1111(代表) FAX0467-58-4265 E-mail: bunkashougai@city.chigasaki.kanagawa.jp

PC用 URL <http://www.city.chigasaki.kanagawa.jp/> 携帯用 URL <http://mobile.city.chigasaki.kanagawa.jp/>